

じや口から水が出てくる大切な

「ごくつ」「あっもうなくなつた。そう言  
いいつものように学校の冷水機から水とフゝ  
水を注ぐ。この安全でおいしい水を飲み気分  
が落ち着いた。私は、今まで毎日何回も使つ  
ゝ水についてとくに深く考えた事は、なか  
った。

だがある時、じや口をひねると安全でおい  
しい水が出て来るのは、世界で九か国しかな  
いというげんじようを知り、おどろいた。

今まで世界で安全でおいしい水を飲めない方  
がいる事は、知っていたがこんなにたくさん  
いたとは、思わなかった。

また、なぜ冷水機の水がこんなにもおいし  
いのか気になつたので調べてみたところ理由  
は、二つあった。

一つ目の理由は、水が流れる山や森は、色  
々な動物の住みかであるため豊かな自ぜんか  
ほうふでありその中の土を通つてくる水たか  
らとてもおいしい。二つ目の理由は、水がじ

が口にとどくまでかん理などをしてください。知っている一人一人がいるからだ。学校でえた知識きだが水は、六か所の場所でもかんりされ、浄水など沢さんの作業をして私たちがふたん使う水となっているのだ。

東京都の水道水がとくにおいしい理由にも注目してみた所、理由が二つあった。一つ目の理由は、水質基準がミネラルウォーターよりもきびしいためせいけつでおいしい。

二つ目の理由は、オゾンや活性炭を利用し、おいの元となる物を取りのぞく事が出来るのでおいしい水を作る事が出来るそうだった。

ある日私の母は、たん水について話してくれた。たん水とは、近所で水道かんの工事などが行われ、数時間水が使えなくなるというじょうきょうだ。母は、たったの数時間でもお手あらいの水を流せなかったり、食器をあらえなかったり、手をあらえなかったりなど沢さんの事が出ぎなくて、ふべんだったと話してくれた。水を使えるありがたさをあ

らためて知った。

ところで中村哲さんを知っているだろうか。中村哲さんとは、佐賀の国立病院で精神科の医師をしていました。バキスタンの病院にうつりいろいろの病気に立ち向かった後にアフガニスタンに用水路まで作った方だ。

中村哲さんは、江戸時代からつたわる「じやかご」という工法を用水路に用いた。ツルハシで石をわり、自分たちであんだハリが土のすきまにわたる石をばめこみコンクリートのかわりとした。7年間で約10万人の方々が手作業で約400kmの用水路をかんせいさせた。この用水路は、なんと約50万人の命をすくったそうさ。自分にどうしてじやかごから水が出て来る事は、ふつうの事だ。だが、水を毎日、運ばなければならぬ方たちと、水は、宝のようなものがないのだろうか。本を読んで感じた。そして私に水のいさを教えてくれた。

水は、人間の生活にかかせない物だ。しかしその水を私たちの元へ送るすがたにかえ

ているのは、水道局の方々のどかと自ぜんか  
だ。私は、私たちの生活に欠かさない水を守  
るために出巻る事を考えた。たとえば、水、  
その物の使いすぎに気を付ける事、豊かな自  
ぜんを大切にすることなど。私たちが生きる  
ために必要な「水」をこれから一人一人が  
大切にしていけるように、まずは水について  
自分が知る事や周りに知らせる事を心がけて  
いきたい。